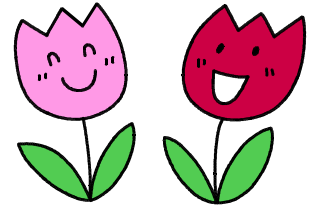




# 職員による「自己評価」を行いました！



3月に入り、春の柔らかな気配が日々感じられるようになりました。子供たちは、卒業、進級に向けて、毎日元気に学校生活を送っています。さて、今年度の教育活動を振り返り、来年度につなげていくことを目的に、職員による「自己評価」を行いました。その結果を保護者の皆様や地域の方々にお知らせし、忌憚のないご意見・ご示唆をいただく中で、大國小教育のさらなる発展と改善に努めていきたいと思っております。今後とも大國小発展のためにご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



## 1 「自己評価」結果

【A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない の4段階で評価】

具体的な評価内容(指標)	評価 (%)			
	A	B	C	D
① 学校教育目標が学校経営方針を踏まえたものになっている。	93	7	0	0
② 学校教育目標達成のため、実態に即した学校経営が行われている。	82	18	0	0
③ 経営方針に基づき、教職員の協力により学校運営がなされている。	93	7	0	0
④ 学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	79	21	0	0
⑤ PDCAのマネジメントサイクルで、本校の教育活動が取り組まれている。	75	21	4	0
① 校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を適切に処理している。	82	14	4	0
② 危機管理マニュアルが整備され、教職員に周知・徹底されている。	82	18	0	0
③ 事件・事故や災害発生の際、適切で迅速な対応ができるよう役割分担が明確化されている。	86	14	0	0
④ 個人情報保護の観点から、児童の個人情報に関する管理システムが確立されている。	79	21	0	0
⑤ 協働のため、相互理解や信頼関係が深まるように努めている。	79	21	0	0
⑥ 「報告・連絡・相談」が機能的に行われている。	89	11	0	0
⑦ 会議は、建設的・効果的に行われている。	60	36	4	0
⑧ 校務分掌は、学校運営上、機能している。	60	36	4	0
⑨ 多忙化解消に向け、諸行事の精選、外部人材の活用等に取り組んでいる。	57	31	11	0
① 児童の学びの意欲を喚起する授業の工夫に努めている。	46	54	0	0
② 基礎・基本を明確にし、指導に取り組んでいる。	82	18	0	0
③ 個に配慮した効果的な指導に取り組んでいる。	60	36	4	0
④ 評価規準と評価方法を明確にし、指導に取り組んでいる。	46	54	0	0
⑤ 教材教具や備品、ICT等を効果的に活用している。	42	54	4	0
⑥ 児童とのコミュニケーションをとることで児童理解に努めている。	82	18	0	0
⑦ 児童の規範意識を育む指導に取り組んでいる。	68	25	7	0
⑧ いじめ防止対策について、未然防止と早期発見、早期解決に向けて積極的に取り組んでいる。	82	18	0	0
⑨ 不登校の解消に向けて、関係機関等と連携しながら、学年や学校としての協働した対応に取り組んでいる。	82	18	0	0
⑩ 多様な子どもたちの状況に対応するために、個別の教育支援計画の作成に取り組んでいる。	54	46	0	0
⑪ 安全教育の充実のため、防災・防犯訓練や自転車安全教室など、自分で自分の命を守る行動がとれるように指導している。	64	36	0	0
① 教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を活かす体制が整えられている。	62	32	4	0
② 保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞く機会を設け、情報の収集に努めている。	75	25	0	0
③ 保護者や地域に、学校の教育活動について広報している。	82	14	4	0
④ PTA活動のより良い推進のため、教師・保護者が積極的に関わるように努めている。	86	10	4	0
⑤ 児童生徒の安全確保や健康保持のために地域・保護者が積極的に関わるように努めている。	61	39	0	0
⑥ 家庭学習の推進のために、学校と家庭が連携しながら、読書や自主学習などに取り組んでいる。	39	54	0	0
⑦ 学校評議員制度が有効に機能している。	64	36	0	0
① 児童が進んであいさつするよう、指導に努めている。	64	36	0	0
② 授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的を実施している。	82	18	0	0
③ 思い遣る心の育成、言語活動の充実などを目指し児童生徒が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。	50	43	7	0
④ 諸行事に児童が進んで取り組むよう、指導に努めている。	75	25	0	0
⑤ 学年集会や学級間の連携などオープンスペースの特色を生かした取組をしている。	52	42	4	0

## 2 各項目の達成状況とその改善策

\* 以下の考察にあたっては、自己評価各項目における「A（そう思う）」と「B（ややそう思う）」を合わせた回答が全体に占める割合（％）を、“肯定的回答”としました。

I 学校教育目標に関して	
状況	・職員へのアンケート5項目とも、肯定的回答の割合が高かった。学校教育目標達成に向けて職員が協力して取り組んでいることが明らかになった。しかし、⑤「PDCAのマネジメントサイクル」については、肯定的回答のうち、Aの割合がやや低かった。今後は、本校の教育活動の検証と改善にも積極的に取り組んでいきたい。
改善策等	○今後も、職員間の協力体制と意思の疎通を大切にしながら学校教育目標の実現に向けた意識を高く持って教育活動の推進に努めるとともに、教育計画等の見直しや精選を検討する。 ○PDCAのマネジメントサイクルの意義と進め方について、今後とも、全職員で共通理解を図りながら進めていく。そして、行事ごと、また月ごとに振り返りを行い、明らかにした成果と課題を次にどう生かすか検討し実行することで年度中の取組を強化する。
II 学校経営・組織について	
状況	・職員へのアンケート9項目とも、肯定的回答の割合が高かった。しかし、④「個人情報の管理」⑦「会議の効率化」⑧「校務分掌」⑨「多忙化解消」については、肯定的回答のうち、Aの割合がやや低く、⑦⑧⑨については、C（ややそう思わない）の評価もあり、課題が見られる。
改善策等	○個人情報の管理について再度全体での徹底を図り、個人情報の保護に努める。 ○問題が発生した際は、すぐに報告・連絡をし相談する。全体で共通理解を図りながら、迅速に対応していくことを、今後も徹底していく。 ○校務分掌の平準化、適材適所の原則を守りつつ、学校業務の適切な運営に向けて検討と改善を続ける。 ○多忙化解消については、行事の精選・地域人材の活用・会議の効率化などとともに、子供たちに向き合う時間を確保しながら、よりよい方向性を今後も探っていく。
III 学習指導・生徒指導について	
状況	・職員へのアンケート11項目とも肯定的回答の割合が高いものの全体的にAの割合が低かった。特に、④「評価規準と評価方法を明確にし、指導に取り組んでいる」についてはA評価の値がやや低く課題が見られる。また、③「個に配慮した効果的指導への取組」⑤「教材教具や教材備品、ICT等の活用」⑦「児童の規範意識への取組」⑩「個別的教育支援計画の作成」については、C（ややそう思わない）の評価もあり、課題も見られる。
改善策等	○評価規準と評価方法を明確にして、今後の指導に活かしていく。 ○個に配慮した指導をする時間と場所の確保に努め、計画的な指導につなげていく。 ○教材教具の工夫に努め、ICTも活用しながら、授業改善に積極的に取り組む。 ○関係機関や家庭とも連携しながら個別的教育支援計画の作成に取り組む。 ○自分の命を自分で守るための安全教育の充実について、避難訓練だけでなく総合的に取り組む。 ○規範意識や思いやりの心を育むために、全職員で共通理解を図りながら取り組む。学校のルールについても、細かい部分まで共通理解を確実に図っていく。
IV 地域との連携について	
状況	・職員へのアンケート7項目とも肯定的回答の割合が高かったが、④「PTA活動の推進」⑥「家庭学習の推進」についてはC（ややそう思わない）の評価もあり、課題も見られる。さらに地域の方々との連携を深め、A評価を高める必要がある。③の「保護者や地域に学校に、学校の教育活動について広報している」は、Aの割合が高くなり、改善傾向も見られる。
改善策等	○PTA活動については、学校と保護者が同じ方向を向けるように協力体制を強化していく。 ○家庭学習の推進についても、学校と家庭が連携しながら、読書を中心に改善していきたい。 ○老人クラブをはじめ、地域の方々から児童の学習や安全パトロールなどへの支援・協力をいただいている。これまでの活動を振り返り、成果や課題を明確にし、さらに地域の教育力を活かす体制づくりに向けて取組を進める。 ○学校・学年だよりやホームページ等を通して、より学校の様子について広報していく。 ○本校の学校運営や教育活動に対して意見や示唆をいただける機会として、学校評議員制度をさらに活用するとともに、学校評議員会での話題や課題等を職員にも伝え、その意義の理解を図る。
V 学校の特色に関して	
状況	・職員へのアンケート5項目とも、肯定的回答の割合が高かった。①「あいさつ指導」と③「読書活動」についてはAの評価がやや低かった。また、⑤「オープンスペースの特色を生かした指導」については、C（ややそう思わない）の評価もあり、課題も見られる。
改善策等	○学校行事や授業参観等への参加者が多く、学校としてもありがたく感じている。学級・学年懇談会やPTA活動への参加をさらに促し、相互の理解と連携が図れるように努める。 ○地域家庭と連携したあいさつ運動がより広がりを見せてきた。今後は職員自ら率先したり、児童会活動を活性化したりしてあいさつ運動をより活発に展開する。 ○コモンスペースの活用については、学年集会や広いスペースが必要な際（発表の練習・作業等）の積極的な利用、学習活動や読書活動など、様々な場面で有効活用していく。